

# 業績の概要と分析

## 連結決算の概要

平成17年度中間期の三井住友フィナンシャルグループ連結決算の概要は以下のとおりとなりました。

### 業績

平成17年度中間連結決算は、連結子会社166社(国内120社・海外46社)・持分法適用会社59社(国内31社・海外28社)を対象としています。

平成17年度中間連結決算につきましては、預金利息等の資金調達費用の増加により資金利益が前年同期比420億円減少した一方で、投資信託関連手数料等の増加により役員取引等利益が同433億円増加したこと等により、連結粗利益が同19億円増加して1兆219億円となりました。この連結粗利益に、営業経費、与信関係費用、株式等損益などを加減した経常利益は、与信関係費用の大幅な減少等により、同3,496億円増益の4,637億円となりました。また、経常利益に、特別損益及び法人税等を加減した中間純利益

は、同3,389億円増益の3,923億円となりました。

また、預金残高は、平成16年度末比7,676億円増加して69兆2,425億円となり、譲渡性預金残高は、同1,834億円減少して2兆5,297億円となりました。

一方、貸出金残高は、平成16年度末比1兆2,952億円増加して56兆950億円、有価証券残高は、同6,541億円減少して23兆5,795億円となりました。

資本勘定(純資産)につきましては、中間純利益の計上及びその他有価証券評価差額金の増加により、平成16年度末比4,866億円増加して3兆2,623億円となりました。

### 連結子会社・持分法適用会社数

(単位 社)

|          | 平成16年度中間期末 | 平成17年度中間期末 | 平成16年度末 |
|----------|------------|------------|---------|
| 連結子会社数   | 166        | 166        | 167     |
| 持分法適用会社数 | 50         | 59         | 53      |

### 損益の状況

(金額単位 百万円)

|                               | 平成16年度中間期      | 平成17年度中間期      | 平成16年度         |
|-------------------------------|----------------|----------------|----------------|
| 連結粗利益                         | 1,019,955      | 1,021,916      | 2,024,990      |
| 資金利益                          | 595,790        | 553,715        | 1,171,342      |
| 信託報酬                          | 729            | 4,285          | 2,609          |
| 役員取引等利益                       | 235,379        | 278,707        | 516,109        |
| 特定取引利益                        | 30,322         | 12,259         | 144,387        |
| その他業務利益                       | 157,732        | 172,948        | 190,540        |
| 営業経費                          | 423,612        | 421,626        | 852,715        |
| 与信関係費用                        | 612,826        | 176,525        | 1,196,797      |
| 貸出金償却                         | 391,236        | 42,681         | 759,399        |
| 個別貸倒引当金繰入額                    | 408,321        | 143,816        | 493,947        |
| 一般貸倒引当金繰入額                    | 240,215        | 39,495         | 201,216        |
| その他                           | 53,482         | 29,522         | 144,666        |
| 株式等損益                         | 48,817         | 35,265         | 101,918        |
| 持分法による投資損益                    | 12,893         | 14,081         | 27,142         |
| その他                           | 68,873         | 9,342          | 69,005         |
| 経常利益(は経常損失)                   | <b>114,100</b> | <b>463,768</b> | <b>30,293</b>  |
| 特別損益                          | 17,385         | 47,524         | 78,242         |
| うち減損損失                        | /              | 10,580         | /              |
| 税金等調整前中間純利益<br>(は税金等調整前当期純損失) | 96,715         | 511,293        | 108,535        |
| 法人税、住民税及び事業税                  | 17,079         | 32,367         | 30,638         |
| 還付法人税等                        | 8,104          | —              | 8,869          |
| 法人税等調整額                       | 5,277          | 60,672         | 52,912         |
| 少数株主利益                        | 29,090         | 25,925         | 50,983         |
| 中間純利益(は当期純損失)                 | <b>53,372</b>  | <b>392,327</b> | <b>234,201</b> |
| <参考> 連結業務純益(金額単位 億円)          | 5,449          | 5,796          | 10,144         |

(注) 1. 連結粗利益 = (資金運用収益 - 資金調達費用) + 信託報酬 + (役員取引等収益 - 役員取引等費用) + (特定取引収益 - 特定取引費用) + (その他業務収益 - その他業務費用)

2. 連結業務純益 = 三井住友銀行業務純益(一般貸倒引当金繰入額) + 他の連結会社の経常利益(臨時要因調整後) + 持分法適用会社経常利益 × 持分割合 - 内部取引(配当等)

## 資産・負債・資本勘定

(金額単位 百万円)

|         | 平成16年度中間期末  | 平成17年度中間期末  | 平成16年度末    |
|---------|-------------|-------------|------------|
| 資産      | 101,054,242 | 102,233,832 | 99,731,858 |
| うち貸出金   | 55,422,034  | 56,095,034  | 54,799,805 |
| うち有価証券  | 24,073,122  | 23,579,596  | 24,233,701 |
| 負債      | 97,015,765  | 97,896,973  | 95,934,927 |
| うち預金    | 67,619,961  | 69,242,541  | 68,474,861 |
| うち譲渡性預金 | 3,038,333   | 2,529,775   | 2,713,270  |
| 少数株主持分  | 1,017,565   | 1,074,517   | 1,021,203  |
| 資本勘定    | 3,020,911   | 3,262,340   | 2,775,728  |

## II 有価証券の評価損益

平成17年度中間期末の有価証券の評価損益は、平成16年度末比1,957億円増加して8,904億円の評価益となりました。このうち、資本直入の対象となる「その他有価証券(含むその他の金銭の信託)」の評価損益は、同2,013億円増加して8,978億円の評価

益となりました。

「その他有価証券」の評価益が増加しているのは、株式相場の上昇により株式の評価益が同2,876億円増加したことが主な要因であります。

## 有価証券の評価損益

(金額単位 百万円)

|           | 平成17年度中間期末 |          |           |         | 平成16年度末 |         |         |
|-----------|------------|----------|-----------|---------|---------|---------|---------|
|           | 評価損益       | 平成16年度末比 | 評価益       | 評価損     | 評価損益    | 評価益     | 評価損     |
| 満期保有目的    | 7,411      | 5,593    | 1,390     | 8,802   | 1,818   | 2,114   | 3,933   |
| その他有価証券   | 897,653    | 201,314  | 1,070,345 | 172,691 | 696,339 | 801,356 | 105,017 |
| 株式        | 992,730    | 287,677  | 1,031,519 | 38,788  | 705,053 | 750,480 | 45,426  |
| 債券        | 83,132     | 98,093   | 4,822     | 87,955  | 14,961  | 34,971  | 20,010  |
| その他       | 11,944     | 11,731   | 34,002    | 45,947  | 23,675  | 15,903  | 39,579  |
| その他の金銭の信託 | 209        | 5        | 209       | —       | 204     | 300     | 95      |
| 合計        | 890,450    | 195,726  | 1,071,944 | 181,493 | 694,724 | 803,771 | 109,046 |
| 株式        | 992,730    | 287,677  | 1,031,519 | 38,788  | 705,053 | 750,480 | 45,426  |
| 債券        | 90,986     | 103,607  | 5,771     | 96,757  | 12,621  | 36,554  | 23,932  |
| その他       | 11,293     | 11,657   | 34,654    | 45,947  | 22,950  | 16,735  | 39,686  |

- (注) 1. 「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金並びに「買入金銭債権」中の売掛債権等の信託受益権も含めております。  
 2. 株式については主に(中間)期末日前1カ月の平均時価に、それ以外は(中間)期末日の時価に基づいております。  
 3. 「その他有価証券」及び「その他の金銭の信託」については、時価評価しておりますので、上記の表上は、(中間)連結貸借対照表価額と取得原価(又は償却原価)との差額を計上しております。  
 なお、平成17年度中間期末の「その他有価証券」の評価損益のうち、時価ヘッジの適用により費用に計上した額が557百万円、組込デリバティブを区別して測定することが出来ない複合金融商品について、当該複合金融商品全体の評価差額を費用に計上した額が400百万円ありますので、資本直入処理の対象となる額は、957百万円加算されます。また、平成16年度末の「その他有価証券」の評価損益のうち、時価ヘッジの適用により収益に計上した額が469百万円、組込デリバティブを区別して測定することが出来ない複合金融商品について、当該複合金融商品全体の評価差額を収益に計上した額が82百万円ありますので、資本直入処理の対象となる額は、551百万円控除されます。

## III 連結自己資本比率

平成17年度中間期末の連結自己資本比率(第一基準)は、11.00%となりました。

自己資本比率の分子となる自己資本は、中間純利益の計上及び新規劣後調達等により、平成16年度末比9,240億円増加して6兆

9,441億円となりました。また、分母となるリスク・アセットは、海外における貸出金の増加、円安による外貨建資産の増加及び住宅ローンやリスクテイク型貸金を引き続き積極的に投入したこと等により、同2兆5,752億円増加して63兆1,278億円となりました。

## 連結自己資本比率(第一基準)の状況

(金額単位 百万円)

|                            | 平成16年度中間期末 | 平成17年度中間期末 | 平成16年度末    |
|----------------------------|------------|------------|------------|
| Tier 1(基本的項目)              | 3,645,613  | 3,746,083  | 3,262,250  |
| Tier 2(補完的項目)(うち自己資本への算入額) | 3,419,442  | 3,746,083  | 3,262,250  |
| 控除項目                       | 443,633    | 548,006    | 504,430    |
| 自己資本 計                     | 6,621,422  | 6,944,161  | 6,020,069  |
| リスク・アセット                   | 60,539,127 | 63,127,899 | 60,552,620 |
| 自己資本比率                     | 10.93%     | 11.00%     | 9.94%      |

## 単体決算の概要

平成17年度中間期の三井住友銀行単体決算の概要は以下のとおりとなりました。

### I 業績

平成17年度中間決算につきましては、業務粗利益が前年同期比39億円増加の7,666億円、経費(除く臨時処理分)が同12億円増加の2,924億円となりました結果、業務純益(除く一般貸倒引当金繰入額)は、同26億円増加の4,742億円となりました。

この業務純益(除く一般貸倒引当金繰入額)に、与信関係費用、株式等損益などの臨時的な損益を加えた後の経常利益は、同2,345億円増益の3,597億円となりました。

これに、特別損益及び法人税等の税負担を加減した中間純利益は、同1,802億円増益の2,987億円となりました。

### II 損益の状況

#### 業務粗利益

業務粗利益は、前年同期比39億円増加して7,666億円となりました。これは、ドル金利の上昇等から市場営業部門収益が減少したこと等により資金利益が同365億円減少したものの、投資信

託・個人年金保険販売等の個人向けコンサルティング業務関連の手数料が増加したこと等により役務取引等利益が同364億円増加したこと及び信託報酬が同35億円増加したことが主な要因であります。

#### 経費

経費(除く臨時処理分)は、前年同期比12億円増加して2,924億円となりました。これは人員削減により人件費が減少したものの、重点分野に対する積極的投資により物件費が増加したことが主な要因であります。

#### 業務純益

以上の結果、平成17年度中間期の業務純益(除く一般貸倒引当金繰入額)は、前年同期比26億円増加して4,742億円となりました。

#### 業務純益

(金額単位 百万円)

|                                   | 平成16年度中間期                   | 平成17年度中間期                   | 平成16年度                      |
|-----------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 資金利益                              | 490,868                     | 454,350                     | 972,506                     |
| 信託報酬                              | 729                         | 4,284                       | 2,609                       |
| 役務取引等利益                           | 127,021                     | 163,433                     | 298,076                     |
| 特定取引利益                            | 21,150                      | 3,570                       | 131,579                     |
| その他業務利益                           | 122,946                     | 141,009                     | 118,088                     |
| 業務粗利益<br>(除く国債等債券損益)              | 762,716<br>(736,053)        | 766,648<br>(738,282)        | 1,522,861<br>(1,544,452)    |
| 国内業務粗利益                           | 590,117                     | 626,576                     | 1,182,811                   |
| 国際業務粗利益                           | 172,598                     | 140,071                     | 340,049                     |
| 経費(除く臨時処理分)                       | 291,136                     | 292,415                     | 582,365                     |
| 人件費                               | 104,320                     | 98,888                      | 204,146                     |
| 物件費                               | 168,549                     | 177,046                     | 341,534                     |
| 税金                                | 18,266                      | 16,480                      | 36,684                      |
| 業務純益(除く一般貸倒引当金繰入額)<br>(除く国債等債券損益) | <b>471,580</b><br>(444,917) | <b>474,233</b><br>(445,867) | <b>940,495</b><br>(962,086) |
| 一般貸倒引当金繰入額                        | 349,734                     | 24,335                      | 351,477                     |
| 業務純益                              | 821,314                     | 498,568                     | 1,291,972                   |

### [ 参考 ]

#### 業務部門別業績

(金額単位 億円)

| 業務純益(除く一般貸倒引当金繰入額) | 個人部門 | 法人部門  | 企業金融部門 | 国際部門 | 市場営業部門 | 本社管理 | 合計    |
|--------------------|------|-------|--------|------|--------|------|-------|
| 平成17年度中間期          | 690  | 2,383 | 803    | 280  | 1,145  | 559  | 4,742 |
| 前年同期比              | +158 | +106  | 26     | +63  | 276    | +1   | +26   |

(注) 1. 前年同期比は金利影響・為替影響等を除いた行内管理ベースであります。

2. 「本社管理」内訳：(1)優先証券コスト・劣後調達コスト、(2)自己資本運用益、(3)部門間の調整 等

## 臨時損益(不良債権処理等)

臨時損益は、前年同期比大幅に改善し1,387億円の損失となりました。これは堅調な株式相場環境の下、株式売却益を計上したことに加え、前年度に将来リスクへの対応力強化を目的としての貸倒引当金の積み増しも含め、バランスシートのクリーンアップを図った結果、不良債権処理額が前年同期比6,515億円減少したことが主な要因であります。なお、臨時損益に計上された不良債権処理額1,540億円に一般貸倒引当金戻入額を加えた与信関係費用は1,297億円となりました。不良債権処理額及び不良債権の開示額については、22ページ以降の「不良債権の現状」をご覧ください。

## 経常利益

以上の結果、経常利益は前年同期比2,345億円増益の3,597億円となりました。

## 特別損益

特別損益は、前年同期比74億円改善し46億円の損失となりました。

## 中間純利益

法人税、住民税及び事業税については50億円となりました。また、税効果会計による法人税等調整額は512億円となりました。これらの結果、中間純利益は前年同期比1,802億円増益の2,987億円となりました。

## 経常利益・中間(当期)純利益

(金額単位 百万円)

|                    | 平成16年度中間期 | 平成17年度中間期 | 平成16年度    |
|--------------------|-----------|-----------|-----------|
| 業務純益(除く一般貸倒引当金繰入額) | 471,580   | 474,233   | 940,495   |
| 一般貸倒引当金繰入額         | 349,734   | 24,335    | 351,477   |
| 貸出金償却              | 348,769   | 16,804    | 697,941   |
| 個別貸倒引当金繰入額         | 403,866   | 122,647   | 474,155   |
| 貸出債権売却損等           | 55,707    | 14,746    | 138,052   |
| 特定海外債権引当金繰入額       | 2,838     | 202       | 3,828     |
| うち不良債権処理額          | 805,505   | 153,994   | 1,306,320 |
| 株式等売却益             | 60,005    | 34,137    | 113,059   |
| 株式等売却損             | 434       | 360       | 4,206     |
| 株式等償却              | 14,751    | 8,833     | 227,580   |
| うち株式等損益            | 44,819    | 24,942    | 118,727   |
| 臨時損益               | 696,116   | 138,790   | 1,363,653 |
| 経常利益(は経常損失)        | 125,198   | 359,778   | 71,680    |
| うち動産不動産処分損益        | 3,991     | 665       | 12,495    |
| うち減損損失             | /         | 5,288     | /         |
| うち退職給付会計基準変更時差異償却  | 8,000     | —         | 16,001    |
| 特別損益               | 12,127    | 4,662     | 28,398    |
| 法人税、住民税及び事業税       | 1,645     | 5,081     | 6,379     |
| 還付法人税等             | 7,405     | —         | 8,184     |
| 法人税等調整額            | 276       | 51,267    | 38,579    |
| 中間純利益(は当期純損失)      | 118,554   | 298,766   | 136,854   |
| 与信関係費用             | +         | 455,771   | 954,843   |

### III 資産・負債・資本勘定の状況

#### 資産

銀行単体の総資産は、平成16年度末比2兆1,639億円増加して93兆2,937億円となりました。資産が増加したのは、金利動向を踏まえたオペレーションを行った結果、債券貸借取引支払保証金が同1兆5,974億円、コールローンが同2,339億円増加したこと及び海外での高格付先や個人・中小企業向けに住宅ローンやリスクテイク商品などを引き続き積極的に投入したことにより貸出金が同8,815億円増加したことが主な要因であります。

#### 負債

負債は、平成16年度末比1兆7,454億円増加して90兆1,225億円となりました。負債が増加したのは、流動性預金の増加により預金が同5,925億円、効率的な資金調達のため売渡手形が同1兆2,171億円増加したことが主な要因であります。

#### 資本勘定

資本勘定(純資産)は、平成16年度末比4,185億円増加して、3兆1,712億円となりました。資本勘定が増加したのは、中間純利益の計上及びその他有価証券評価差額金の増加が主な要因であります。

なお、期中に、資本金を超過する資本準備金のうち3,449億円を減少させ、その他資本剰余金に振り替えております。

#### 資産・負債・資本勘定

(金額単位 百万円)

|         | 平成16年度中間期末 | 平成17年度中間期末 | 平成16年度末    |
|---------|------------|------------|------------|
| 資産      | 92,742,940 | 93,293,761 | 91,129,776 |
| うち貸出金   | 50,723,607 | 50,949,158 | 50,067,586 |
| うち有価証券  | 23,524,899 | 23,039,486 | 23,676,696 |
| 負債      | 89,986,163 | 90,122,526 | 88,377,041 |
| うち預金    | 62,011,605 | 63,380,886 | 62,788,328 |
| うち譲渡性預金 | 3,239,176  | 2,602,639  | 2,803,299  |
| 資本勘定    | 2,756,776  | 3,171,235  | 2,752,735  |

## IV 有価証券の評価損益

平成17年度中間期末の有価証券の評価損益は、平成16年度末比2,511億円増加して9,612億円の評価益となりました。このうち、資本直入の対象となる「その他有価証券(含むその他の金銭の信託)」の評価損益は、同2,001億円増加して8,517億円の評価益となりました。

「その他有価証券」の評価益が増加しているのは、株式相場の上昇により株式の評価益が同2,780億円増加したことが主な要因であります。

## 有価証券の評価損益

(金額単位 百万円)

|            | 平成17年度中間期末 |          |           |         | 平成16年度末 |         |         |
|------------|------------|----------|-----------|---------|---------|---------|---------|
|            | 評価損益       | 平成16年度末比 | 評価益       | 評価損     | 評価損益    | 評価益     | 評価損     |
| 満期保有目的     | 7,434      | 5,590    | 1,367     | 8,801   | 1,844   | 2,089   | 3,933   |
| 子会社・関連会社株式 | 116,899    | 56,556   | 116,899   | —       | 60,343  | 60,690  | 347     |
| その他有価証券    | 851,571    | 200,186  | 1,013,885 | 162,314 | 651,385 | 750,143 | 98,757  |
| 株式         | 945,387    | 278,061  | 980,079   | 34,692  | 667,326 | 708,643 | 41,317  |
| 債券         | 80,253     | 87,953   | 2,917     | 83,171  | 7,700   | 27,343  | 19,642  |
| その他        | 13,562     | 10,079   | 30,888    | 44,450  | 23,641  | 14,155  | 37,797  |
| その他の金銭の信託  | 209        | 5        | 209       | —       | 204     | 300     | 95      |
| 合計         | 961,246    | 251,158  | 1,132,362 | 171,115 | 710,088 | 813,222 | 103,133 |
| 株式         | 1,062,286  | 334,617  | 1,096,979 | 34,692  | 727,669 | 769,333 | 41,664  |
| 債券         | 88,106     | 93,466   | 3,866     | 91,972  | 5,360   | 28,925  | 23,565  |
| その他        | 12,933     | 10,008   | 31,517    | 44,450  | 22,941  | 14,963  | 37,904  |

- (注) 1. 「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金も含めております。
2. 株式のうち子会社・関連会社株式に該当しないものについては(中間)期末日前1カ月の平均時価に、それ以外は(中間)期末日の時価に基づいております。
3. 「その他有価証券」及び「その他の金銭の信託」については、時価評価しておりますので、上記の表上は、(中間)貸借対照表価額と取得原価(又は償却原価)との差額を計上しております。
- なお、平成17年度中間期末の「その他有価証券」の評価損益のうち、時価ヘッジの適用により費用に計上した額が557百万円、組込デリバティブを区別して測定することが出来ない複合金融商品について、当該複合金融商品全体の評価差額を費用に計上した額が400百万円ありますので、資本直入処理の対象となる額は、957百万円加算されます。また、平成16年度末の「その他有価証券」の評価損益のうち、時価ヘッジの適用により収益に計上した額が469百万円、組込デリバティブを区別して測定することが出来ない複合金融商品について、当該複合金融商品全体の評価差額を収益に計上した額が82百万円ありますので、資本直入処理の対象となる額は、551百万円控除されます。